

Making of Beginners

●映画の冒頭を飾る7分間にわたるソーホーの街の長まわし。この街は、ロンドン郊外のサマセット・スタジオに、当時ナポリと俗称されていたノッティン・ヒル地区とともに再現された。セット・デザインを担当したのは、ジョン・ピアード。彼は、「タイム・バンディット」なども手がけたテリー・ギリアム監督の作品、80年代の「時計じかけのオレンジ」で「ブラジル」でアシスタント・デザイナーを務めた。ピアードはここで、「ワリのアメリカー人」でヴィンセント・ミネリがバリの地図を描いたように、ミュージカル映画でロンドンの地図を描きたいというテンブルの夢を実現させている。

●テンブルはこの映画で、ある真実を描こうとしている。58年に実際に起きた人種差別暴動は、一般にティ・ボーイズが起こしたものだと思われているが、実はファシストがしかけたものだったということ。この映画のクライマックスで明確にしたのだ。

●映画作りのポイントは、資金調達。その調達の要になったのが、デビッド・ボウイだ。制作会社への、世界的なスーパースターの一言が、映画を完成へと導いた。

●この映画の原作者コリン・マクィネスは、50年代後半のロンドンをバルザックのバリのように描いた人物で、イギリスのケロアックとも呼ばれていた。1914年に生まれた彼は44歳の時に「Absolute Beginners」を書いたが、生涯のほとんども貧困のうちに過ごし、伝統的な作家のきれいな生活よりも、ソーホーの酒場やホモ・バーを訪れるのを好んだ。同書がベストセラーになったにもかかわらず、1976年に死んだ時も、やはり貧困の中だった。

いま、ロンドンから!

Absolute Beginners

Style

ダイアナ妃来目で高まるイギリスブライバーノ!
話題爆発! 今世紀最大の
ミュージカル超大作



監督/ジュリアン・テンブル ケンブリッジ大学で歴史学と建築学を専攻のち、国立映画学校へ。1979年、セックス・ピストルズの「グレート・ロックンロール・スウィンドル」で監督デビュー。その後、ローリング・ストーンズ、デビッド・ボウイ、シャーデーなどのビデオ・クリップを手がけ、ミュージック・ビデオ界の鬼才といわれる。初のメジャー進出で今後が期待される、33歳。



コリン/エディ・オコーネル 主役のコリンを演じた彼は、何百人という候補者の中から選ばれたラッキー・ガイだ。アイルランド遠征のあいだにロンドンで生まれ、学生時代から俳優を志していた。演劇学校を経て地方回りの劇団に参加していたが、その時期に出演した短編映画が監督ジュリアン・テンブルの目にとまり、スクリーン・テストを受け、見事この大役を勝ち取った。



スゼット/ハツツィ・ケンジット デザイナーを目指すヒロイン、スゼットを演じたハツツィは現在17歳。子役でデビューし、BBCのテレビドラマに多数出演。「華麗なるギャツツィ」、「青い鳥」などの映画にも出演している。兄が結成したロック・グループ、エイズ・ワンダーの紅一点のヴォーカリストとしても活躍をはじめ、ロンドン版マドンナとして、今最も注目されている女の子だ。



ペンディス・ハートナーズ/デビッド・ボウイ 言わずと知れたロック界のスーパースター。現在ミュージシャンの中で、演技の世界でも成功をおさめている数少ない一人。テンブルは、「実際のボウイはとても鋭い感性を持つ反面、とてもウィットに富んだ男なんだ。非常に完璧主義者でもある。歌、ダンス、演技とミュージカルに必要なものをすべて持っている」と絶賛している。



ジュリアン・テンブル監督作品●イギリス・ヴァージン・フィルム+ゴールドクレスト作品
カラー作品●ドルビーステレオ●サントラ盤東芝EMI●日本ヘラルド映画

この物語の基本コンセプトにあるように、50年代後半は若者文化が生まれはじめた時代だった。ファッションにおいても、大人からのお仕着せだった服を捨て去り、自分たちの生き方にいちばんフィットする服を着はじめたのだ。丈の長いジャケットに奇妙なヘアスタイルのティ・ボーイズ、3つボタンのタイトなスーツにベスパのスクーターのモッズなどがその典型だ。



▲イタリアン・カフェにたむろするモッズ。サングラスにステンカラーのコートが最高だ



▲ファッション誌ヴォーグに出てきそうな高級指向のファッション



▶ダンスフロアでいちばんはえるのはこんなギャザーたっぷりドレス



▲コンビの靴でニクイ音こなし



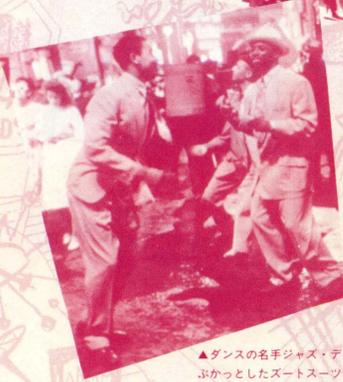
▲キンキラキンのスーツはポップ・スターの証明!!



▲ボディを強調したドレスとビーハイブというヘアも50年代の特徴



▲リーゼントの髪型に丈の長い上着、底の厚い靴のテッス



▲ダンスの名手ジャズ・ディフェクターズはぶかっとしたズートスーツでめきている

6月上旬《超話題》ロードショー!

歌舞伎町 新宿オデオン (202) 0141